

日時：2010年7月26日(火) 15:00～17:00

場所：ガバナー事務所

参加者：磯田委員長、武島副委員長、村橋、吉田、和田、西谷、有竹、小山、田中、中川、米田、榊原 各委員

大阪大学、大阪教育大学、大阪市立大学、大阪成蹊大学、関西外国語大学、大阪電気通信大学、大阪工業大学、大阪商業大学、梅花女子大学、大阪経済大学、大阪国際大学、摂南大学、追手門学院大学、近畿大学、関西大学、大阪産業大学

(独)日本学生支援機構 大阪日本語教育センター、コミュニケーションアート、大阪ハイテクノロジー

7月26日、地区米山奨学委員会と大学等との地区懇談会がガバナー事務所会議室で行われました。2011年度の米山奨学生を選考するにあたり、22の指定校(3校は欠席)の担当者にご出席頂きました。

田中委員の司会のもと、磯田委員長から「ロータリー米山記念奨学事業は、ロータリーの理想とする国際理解と相互理解に努め、国際親善と交流を深めるために優秀な留学生を支援し、世界平和の創造と維持に貢献することを目的としています。その使命は“将来、日本と世界とを結ぶ「懸け橋」となって、国際社会で活躍し、ロータリー運動の良き理解者となる人材を育成”することにあります。優秀とは「①学業」に対する熱意や優秀性はもちろんのこと、「②異文化交流」、「③コミュニケーション能力」への意欲や能力に優れている点が含まれます」と説明があり、「奨学生は奨学期間中にロータリーの例会や奉仕活動に参加することによって、日本の文化、習慣などを学び、社会参加と社会貢献の意識を育て、将来、世界平和の創造と維持に貢献する人物となることが期待されます」と挨拶されました。

次に、武島副委員長からDVDによる説明がありました。「奨学生1人ひとりに、地域のロータリークラブから世話クラブが選ばれ、さらにその会員の中からカウンセラーが付いて、奨学生との交流を深め、彼らの日本での生活が心豊かなものになるよう配慮します。この事業

は、その成り立ちから「交流」を目的としたプログラムです。それを実現するための制度が「世話クラブ・カウンセラー制度」で、奨学生はロータリアンとの交流を通じて、奉仕の精神に触れ、自らの精神を磨き、人生観・職業観を深めます。また、ロータリアンにとっても、金銭的な支援だけでは得られない感動と、事業への深い理解が生まれて、さらなる支援への意欲を盛り立て、奨学生、ロータリアン双方にとって、大きな感動を生む事業だからこそ、50年以上も継続し、日本最大の民間奨学事業に成長しています」と。

その後、質疑応答に入り、指定校からは奨学生の選抜基準として「日本奨学資金機構の基準に準じている」「大学内の先生からの推薦で面接している」「学校行事に積極的に参加している学生を選んでいる」が挙げられ、それでいいのかという質問や、ロータリーのカウンセラー制度には大変感謝している等の意見も出されました。磯田委員長は、奨学生には学業優秀だけでなく、異文化理解や地域交流などへの積極的な姿勢が求められ、各クラブのロータリアンに好かれ、奨学金の終了後もロータリーや学友会と連絡を絶やさないようにできる人が好ましいと結ばれました。

大学側にとっても地区米山奨学委員会にとっても大変有意義な懇談会となりました。

